

公正競争確保の在り方に関する検討会 NTTドコモ完全子会社化に際しての公正競争環境確保へ の弊社懸念点と要望

2021年1月14日

楽天モバイル株式会社

Rakuten Mobile

目次

1. 背景と懸念点 P2

2. 具体的な懸念点① P5

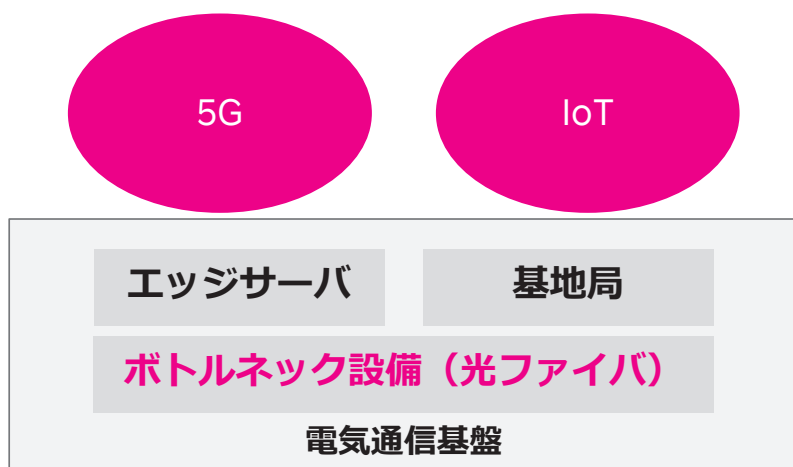
3. 具体的な懸念点② P8

1-1. 弊社意見に関する背景

これまで弊社はNTT東西殿との連携によりNW構築を進めてきました。5G/IoT時代では**光ファイバ等のボトルネック設備はさらに重要になる**と想定されるため、今後も一層の連携させていただきたく考えております。

ボトルネック設備の重要性

- ✓ 今後本格的に訪れる5G/IoT時代においては電気通信基盤の重要性が増していくと想定
- ✓ 5G/IoT時代における低遅延サービスの実現に向けて、**エッジコンピューティングや基地局構築のためにはボトルネック設備の活用がこれまで以上に重要**



弊社とNTT東西殿との連携

現時点での取り組み

- ✓ 基地局設置における、GC局（伝送設備設置場所）、基地局とGC局を結ぶ光ファイバーを借受
 - ✓ ユーザー宅に設置するフェムトセル基地局のネットワーク回線の借受
- 等

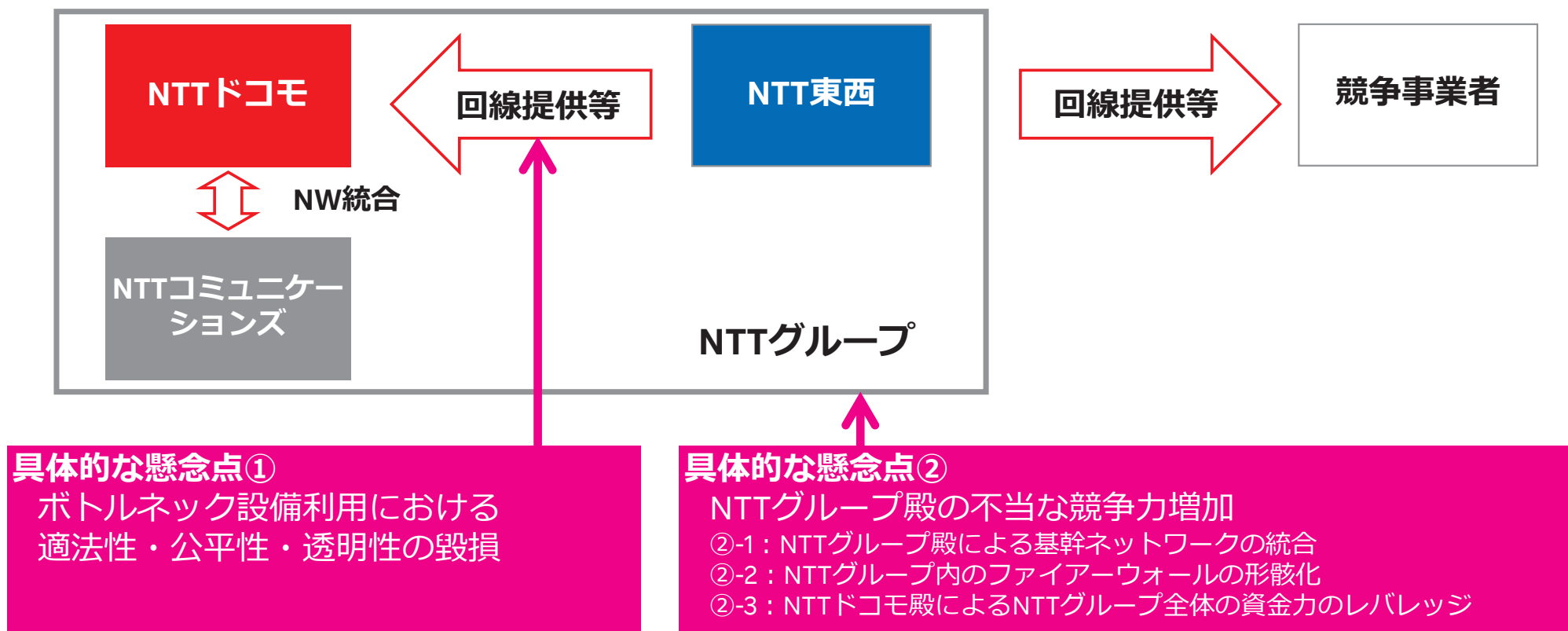
中長期的な取り組みとして連携に向けて検討中

- ✓ RCP※の海外展開（NTTグループ）
 - ✓ 災害時における協力体制
- 等

※Rakuten Communications Platform。弊社が開発を進める4Gおよび5Gのモバイルネットワークを提供するコンテナプラットフォーム

1-2. NTTドコモ完全子会社化に伴いご検討いただきたい懸念点

NTTドコモ完全子会社化後以降もNTT東西殿の**ボトルネック設備利用に係る適法性・公平性・透明性**の担保、**NTTグループ殿の不当な競争力増加**の防止等についての検証が必要と考えます。



目次

1. 背景と懸念点 P2

2. 具体的な懸念点① P5

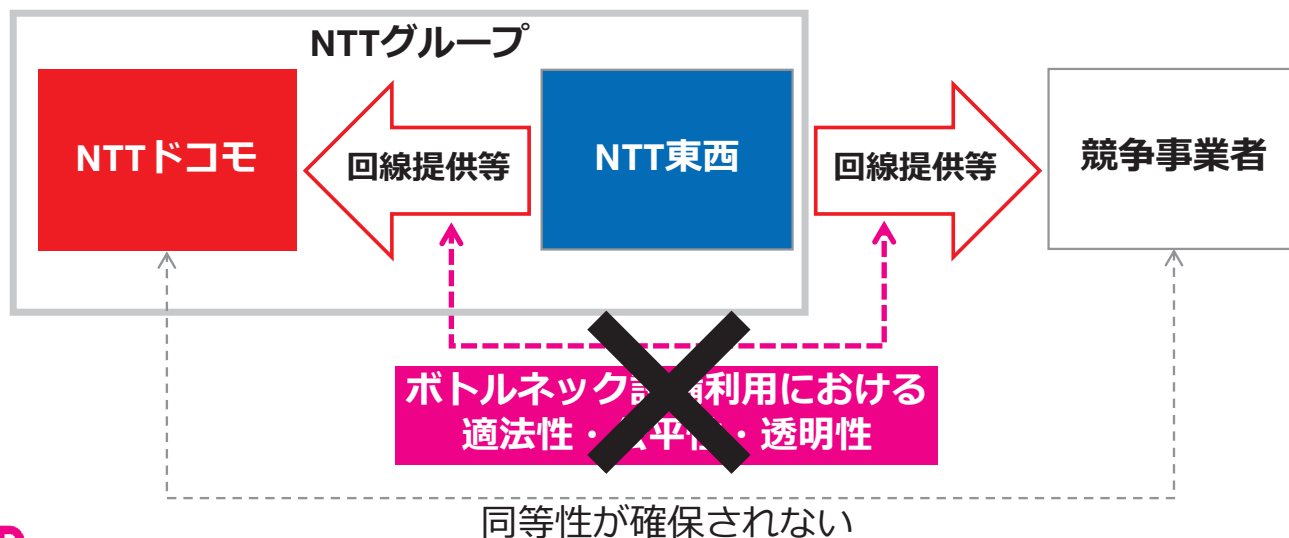
3. 具体的な懸念点② P8

2-1. ボトルネック設備利用における適法性・公平性・透明性の毀損

ボトルネック設備利用においては適法性・公平性・透明性の義務がありますが、NTTグループの一体運用により競争事業者との同等性が確保されない恐れがあります。回線提供手続、NW構築費用面への影響が想定されます。

適法性・公平性・透明性の毀損

- ✓ 第一種指定電気通信設備には、有効かつ公正な競争を確保するために、適法性・公平性・透明性の義務が課されている
- ✓ しかし、NTT東西殿とNTTドコモ殿の連携強化のインセンティブが高まることで、NTTドコモ殿と競争事業者との同等性が確保されない（特に、規制のない卸役務）



今後想定される影響

回線提供手続

- ✓ NTTグループの一体運用により、NTT東西殿との回線提供手続のオープン性（透明性）が損なわれ、NTTドコモ殿の手続が一層優先される
- ✓ 競争事業者においてはNTT東西殿との回線提供待ちの基地局の増加

NW構築費用

- ✓ NTTグループ内の利益還流を生かした光ファイバの料金の高止まり
- ✓ NTTグループ内で局舎の優先利用、及びNTTグループ内の利益還流を生かしたコロケーションスペース料金の高止まり

2-2. NTT東西殿の設備利用における同等性に関する要望

公正な事業環境下での5Gネットワークの構築促進に向け、適法性・公平性・透明性が担保されない事態は認められず、NTTドコモ完全子会社化以降も**NTT東西殿の設備利用において同等性が確保**されることを要望します。

同等性の確保が必要な対象

具体的要望

ダークファイバ

- ✓ これまでは大量の回線提供手続についても、納期通りご対応いただいているが、5G/IoT導入に伴い**NTT東西殿との回線提供待ちの基地局が今後増加した場合、できる限り事業者の要望を尊重した迅速な対応（手続・設置）が必要**
- ✓ NTTドコモ殿と競争事業者間の**適法性・公平性・透明性が担保されているかについての検証が必要**

コロケーション

- ✓ 5G/IoT時代における低遅延サービスの実現においてはエッジコンピューティングが不可欠であり、**コロケーションスペースの利用が増加する**と想定
- ✓ 局舎の**コロケーションスペースの利用に関して、NTTドコモ殿と競争事業者の間での同等性を確保できるような運用（料金、手続き）**とすることが必要

目次

1. 背景と懸念点 P2

2. 具体的な懸念点① P5

3. 具体的な懸念点② P8

3-1. NTTグループ殿の不当な競争力の増加

今回のNTTドコモ完全子会社化は**NTTドコモ分離時の公正競争要件等の主旨に反しており、NTTグループ殿による市場支配力の拡大**が見込まれます。

不当な競争力の増加

<これまでの指針>

- ✓ NTTドコモ分離時に当時の郵政省・NTT殿により発表された「移動体通信事業の分離について」（1992年）においては、**公正競争要件の確保が宣言され、ネットワークの分離、競争事業者と同一な取引条件、NTT殿との人事交流の制限等が定められた**

<今後の市場支配力の変化>

- ✓ FTTH市場におけるNTT東西殿の支配的な地位が、NTTドコモ完全子会社化によって、今後**さらにNTTドコモ殿へとその地位が移転していくことになる**
- ✓ 結果、事実上のNTT一体化により、**市場支配力がさらに拡大することとなる**

懸念

②-1 NTTグループ殿による基幹ネットワークの統合

- ✓ NTTドコモ殿のネットワークとNTT東西殿の第一種指定電気通信設備が一体化する

②-2 NTTグループ内のファイアウォールの形骸化

- ✓ NTTグループ内でさらなる連携強化がなされ、公正競争要件に抵触する形で加入者情報の共有、研究開発成果の利用が起きる

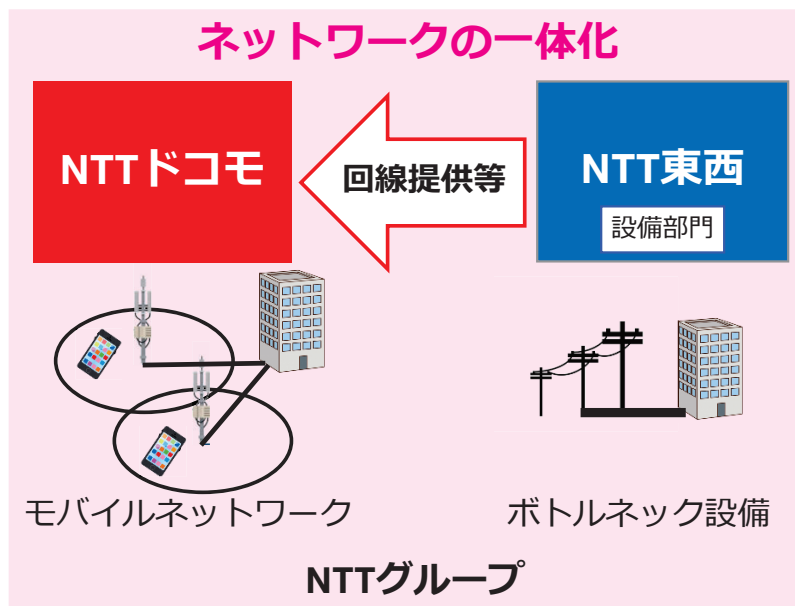
②-3 NTTグループ全体の資金力のレバレッジ

- ✓ NTTドコモ殿がNTTグループの資金力を盾にした一時的な料金値下げによる不当廉売を行う可能性がある

3-2. NTTグループによる基幹ネットワークの統合

NTTドコモ殿のネットワークとNTT東西殿のボトルネック設備が一体化することにより、競争事業者にとっては、**開発期間や開発費用の面で不公平な競争環境**となります。

NTTグループ殿によるネットワークの一体化



今後想定される影響

NTTグループ殿への影響

- ✓ NTTグループ内で**設備・仕様の共通化**
- ✓ NTTグループ内優先、及びネットワーク一体化に伴う投資効率化によって、NTTグループ各社は競争事業者と比べて**早期設備利用とグループ内コスト低減が可能**となる

競争事業者への影響

- ✓ 仕様相違による、追加開発の発生
- ✓ 上記に伴う、**開発期間の長期化、及び、開発費用の増加**

3-3. NTTグループ内のファイアウォールの形骸化

NTTグループ内で**加入者情報の不当利用、研究開発費・使途の不透明化**などが起こりえます。

NTTドコモ分離時の公正競争要件の整備

1. 新会社(注：NTTドコモ)のネットワーク

新会社は、可能な限り、NTTと別個の伝送路を構築するものとし、NTTの回線を利用する場合においては、移動体系事業者と同一の条件とする。

2. 取引条件等

NTTと新会社との間において行われる取引については、取引を通じたNTTから新会社への補助が行われないようにする。また、NTTと新会社との間において行われる鉄塔・局舎の利用、**研究開発成果の利用等の取引条件並びにNTTとの間の接続条件、事業者間精算、情報の開示等の条件については、移動体系新事業者と同一とする。**

3. NTTとの人的関係

NTTから新会社への社員の移行は、「転籍」により行うこととし、出向形態による人事交流は行わないこととする。

4. 出資比率の低下

中核となる会社の株式については、会社設立の5年後の上場を目指すこととし、上場の機会等をとらえNTTの出資比率を低下させるものとする。

5. 資材調達

新会社がNTTの購買力を使用することのないよう、NTTと新会社は共同資材調達を行わないものとする。

今後想定される影響

加入者情報

NTT殿が一元化を目指す加入者管理における、グループ間をまたがった**加入者情報の不当利用**（EC・金融等）

研究開発

NTT各子会社が応分負担し運営されるNTT持株殿の研究開発費等に関して、**各子会社の研究開発費の負担割合やNTT持株殿による研究開発費の使用用途の不透明化**

3-4. NTTグループ全体の資金力のレバレッジ

NTTグループ殿の資金力を盾にし、NTTドコモ殿が一時的な料金値下げによる不当廉売を行う可能性が懸念され、**ドミナントプレイヤーとしての立場の強化、長期的には利用者便益の喪失**が起こりえます。

NTTドコモ殿の財務基盤強化と不当廉売

『NTT、ドコモの完全子会社化における共同会見』

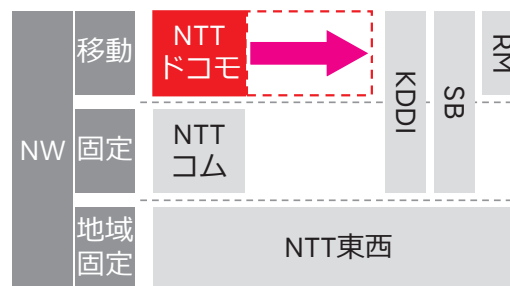
- ✓ 「NTTドコモは強くなり、**財務基盤が整えば**値下げの余力が出てくる」
- ✓ 「お客様の要望の一つとして**値下げ**についても検討していこう捉えている」

NTTドコモ殿によるNTTグループの資金力活用

- ✓ NTTドコモ殿単独ではなく、**グループ全体を活用して値下げ資金を創出可能**
- ✓ グループ全体で見ることにより**値下げによる営業利益の減少が希釈化される**

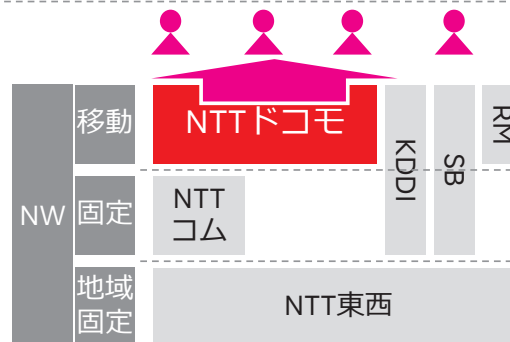
今後想定される影響

値下げによる
シェア拡大



一時的な値下げによって競争力を高めたNTTドコモ殿が**市場シェアを獲得、市場ドミナントプレイヤーとしての立場がさらに強化**される

シェア拡大による
交渉力増大



利用者に対する交渉力が増大し、長期的には利用者便益が喪失される（値上げなど）

3-5. NTT東西殿とNTTドコモ殿の一体的運用への懸念に伴う要望

回線提供に関する規制の実効性の確保に向けた検証について、確実に実施いただきたく考えます。
また、NTT東西殿及びNTTドコモ殿に対しましては適切なモニタリングや情報公開を要望致します。

懸念事項

具体的要望

②-1

基幹ネットワークの統合

- ✓ ボトルネック設備に関する回線提供ルールの実効性が十分に確保されているかの検証
 - NTT東西殿とNTTドコモ殿とのネットワーク一体化がされていないことの検証
 - 競争事業者が様々な階層（収容局、県、集約単位等）でネットワークに接続できることの確保
 - NTT東西殿の設備・仕様や各種計画（光のエリア拡大情報、網機能提供計画等）等に関するNTTグループ内と同等の遅滞ない情報開示

②-2

ファイアウォールの形骸化

- ✓ NTT東西殿がNTTドコモ殿と加入者情報等を共有していない点を総務省よりモニタリングの継続実施
- ✓ 研究開発費の各社拠出額、使用用途別の投入額等の開示、研究開発の内容等の情報公開の実施

②-3

NTTグループ全体の資金力のレバレッジ

- ✓ NTTドコモ殿の各種財務情報の継続的な提供
- ✓ 不当性が認められる場合におけるNTTドコモ殿への是正措置

Rakuten Mobile